



大学院  
人間社会システム科学研究科  
<http://www.human.osakafu-u.ac.jp>

お問い合わせ  
大阪府立大学  
教育推進課 入 試 室 tel (072)254-9601  
教務グループ tel (072)254-9552  
<http://www.osakafu-u.ac.jp/>

交通  
地下鉄御堂筋線なかもず駅  
or 南海高野線白鷺駅下車  
<http://www.osakafu-u.ac.jp/access/>



# 人間社会システム科学研究科

## 博士前期・後期課程

### 言語文化学専攻

Department of Language and Culture

#### ■ 博士前期課程 8名

複雑化した現代社会において、それぞれの言語を基盤とした文化を相互に理解することは、国際社会の安定に重要な意味を持つ。そのためには、おのおのの文化について言語を通じていかに理解するか、その方法が問われなければならない。さらに、その理解をいかに発信するかということも重要な課題となるであろう。

言語文化学専攻では、こうした観点から、自らの文化と異文化について高度な理解を有し、言語・情報を的確に処理でき、多様なメディアを活用した国際的な情報発信能力を有する人材を育成すべく、研究環境を整えている。本専攻では、日本語文化学、英語圏言語文化学、日本語学、日本語教育学、英語学、英語教育学、言語情報学、社会言語学、対照言語学などの研究ができるが、これらは互いに密接な関連を有するものであり、複数の科目を履修することによって、多様で広範な視野からの研究が可能となるよう配慮されている。

また、教員養成にも寄与しうる体制が整えられており、中学校・高等学校の専修免許状（国語または英語）の取得に対応している。

#### ■ 博士後期課程 3名

博士後期課程では、各自の研究課題を中心として、それに関連する専門的な諸知識・技術をも身につけるに適した研究・教育環境を提供する。博士前期課程で培った学識を前提として、言語文化学の諸領域における学術的な文化の継承と創造に積極的な貢献ができる知識と能力を持ち、研究者、教育者として世界に通用する高い水準の人材の育成をめざす。



### 人間科学専攻

Department of Human Sciences

#### ■ 博士前期課程 8名

現代社会における科学技術の進歩やグローバル化の進展は、豊かで近代化された社会の発展をもたらす一方で、文化や民族間の軋轢、生命倫理にまつわる諸対立、地域社会や家族機能の衰退、ジェンダー問題の先鋭化、学校教育の諸問題など、一刻の猶予もなく対応を迫られる社会的課題を現出させてもいる。人間科学専攻はこうした課題を深く理解し、そのよりよい解決に向けて主体的に取り組むことのできる専門的能力を身につけた人材の育成を目指して、人間・社会・文化に関する多様な学問領域を結集している。この学際性・総合性によって、学生は各専門領域の最新の知識を習得することはもちろん、個々の研究テーマを社会科学・人文科学のより広い文脈のなかで意味づけ、多様な角度から問題意識を刷新し続けることができる。

#### ■ 博士後期課程 4名

人間科学専攻博士後期課程では、博士前期課程教育の基礎の上にたち、人間・社会・文化に関する学術的探究をさらに深化させ、その領域における学術研究・教育を行なえるような専門的素養を習得させる。また専攻領域の知識を統合・応用する能力を育むことで、現代社会が直面する諸問題の解決に主体的に取り組むことのできる人材を養成する。本専攻には人間学、ジェンダー論、教育学、社会環境論、文化史・文化研究、思想史、心理学などの領域横断的な研究を行う人間科学分野と、こころの病理を含めた多様な心的現象を通して人間を理解し考察する臨床心理学分野がある。



### 社会福祉学専攻

Department of Social Welfare

#### ■ 博士前期課程 8名

社会福祉学専攻では、人間存在を支える実践と制度としての社会福祉がもつ根源的な意味を確信し、社会福祉に関する学術研究・教育を行う。貧困、社会的排除の深刻化など生活困難の度合いが高まるなか、「人としてあるべき暮らし」の実現を希求する姿勢と冷徹な科学的探究姿勢を併せ持つ実践者、研究者が求められている。本専攻は、複雑かつ多様な現代社会の福祉課題に対し、社会福祉の価値・思想を問い直し、政策運営から個別援助に関わる理論と実践について体系的に学び、幅広い視野をもって課題解決に必要なアプローチを構築できる人材の育成に取り組んでいる。

社会福祉実践の経験から導かれた切実なテーマを探求する社会人院生が多いことが本専攻の特徴の一つであり、仕事を続けながらの学びを可能にするため授業の開講形態に配慮している。また、学士課程で社会福祉学以外の分野を学んで進学した者向けに、社会福祉学専攻の広範な分野を概観する授業を提供し、あわせて社会福祉の実践現場を知る機会を実習として提供していることもカリキュラム上の特徴である。

#### ■ 博士後期課程 3名

社会福祉学専攻博士後期課程では、博士前期課程の基礎の上にたち、社会福祉をとりまく複雑、多様な現実を分析、解明し、あるべき解決を展望することができる実証的な知を備えた人材、それらの知を社会福祉の現場で応用、展開できる実践的な能力をもった人材の養成を目指している。



## 修士課程 平成28年度新設

### 現代システム科学専攻

Department of Sustainable System Sciences

#### ■ 修士課程 25名

現代システム科学専攻は、従来の枠組みにとらわれない発想にもとづく領域横断的な教育研究を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する人材の育成と研究の拠点となることを目指している。

#### 知識情報システム学分野

知能情報学、経営情報学、教育情報学、ヘルスケア情報学などの学際的情報学分野における課題解決への取り組みを通して、知識科学および情報システム工学と社会科学などの他分野との融合による新たな価値を創造するためのシステムデザイン能力、技術の進歩及び社会の変容に対応できる科学的な分析力・思考力を身につけた人材を育成する。

#### 環境システム学分野

人と自然とのつながり（人が自然から受ける影響、人が自然へ及ぼす影響など）に重点を置く「環境学コース」、人と人とのつながり（組織や社会制度、文化や思想、社会問題など）に重点を置く「社会システム論コース」、人の心と環境とのつながり（人が環境からの情報を処理する仕組み、心の発達など）に重点を置く「認知行動論コース」を設け、それぞれの専門的知識と技能を用いて、高い倫理観、使命感を持って持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成する。

#### 臨床心理学分野

心が自然・社会環境と密接に相互作用しているという観点から、従来の人文科学の枠組みを越えた領域横断的な発想によって心と環境の関係を考え、21世紀の多様化した心の問題に対応していける臨床心理士を育成する。



## 研究センター 上方文化研究センター | 心理臨床センター | 女性学研究センター

### 表紙：創成する知

地域社会の生活基盤を維持するために、社会資本の再分配が求められる今日、社会を多様な要素の相互作用からなるシステムとして見る視点から、文化資源の継承と創出を可能にする複合的な知が求められています。

人間社会システム科学研究科は、人類社会の持続可能性を探究する複合的な「知の創成」を目指します。

### CONTENTS

- 01 大学院の構成
- 02 研究科のどこが変わる？現代システム科学専攻とは？
- 03 研究科のどこが変わる？現代システム科学専攻とは？
- 04 大学院の魅力語る
- 05 言語文化学専攻
- 06 入学選抜の教科・科目
- 07 人間科学専攻
- 08 社会福祉学専攻
- 09 現代システム科学専攻

### TOPICS

#### 21世紀科学研究機構に教育福祉研究センターができます 平成27年度新設

教育福祉研究センターは、以下の研究教育を主たる目的として平成27年度に新設予定です。教育福祉に関心ある方々との協働の場となることを期待しています。

- 教育福祉の専門分野で、地域社会のシンクタンクとして地域と連携し課題解決にあたる
- 教員および福祉専門職に対するリカレント教育を推進する
- 教育福祉の専門分野で、国内外の共同研究を推進し、成果を社会に還元するとともに若手研究者の育成に努める

※21世紀科学研究機構には、本研究科教員が所長をつとめる、次のような研究所があります。  
看護システム先端技術研究所、コミュニティデザイン研究所、ソーシャルワーク開発研究所、サービスサイエンス研究センター、スクールソーシャルワーク評価支援研究所、大学史編集研究所、環境哲学・人間学研究所、日本語教育研究所、説話文学美術研究所、情報システム研究センター、エコ・サイエンス研究所など。

# 研究科のどこが変わる？

## 現代システム科学専攻とは？

**吉田** 平成28年度から専攻を増設し、名称も「人間社会システム科学研究科」に変わります。まず、新しくできる「現代システム科学専攻」とはどういった専攻か、牧岡先生から簡略にご説明ください。

**牧岡** この専攻の理念は、**文理を超えた研究によって持続可能な社会の実現を目指す**ことです。現代の地球上の錯綜した問題を理解し、解決するために必要な、情報、環境、社会、人間に関する学問領域を集め、知識情報システム学分野、環境システム学分野（環境学コース、社会システム論コース、認知行動論コース）、臨床心理学分野を設けます。修士一年次では専攻共通科目や演習を設定して、異なる領域を学ぶ院生が協働して特定のテーマに取り組む学際的な学びを進めます。これを土台に各自の専門的研究を進めることによって、錯綜した現象の本質を見抜く高度なシステムの思考力、異なる領域の知識をつなぐ領域横断的応用力を身につけます。ひとまず修士課程として発足しますが、一期生の修了に合わせて博士後期課程を立ち上げることを構想しています。

**吉田** 工学や生命環境科学など他の研究科からも志の高い先生方にご参加いただき、新しいパワーを得て本研究科を充実できること、うれしく思います。既存の3専攻は、これまで通り言語文化、人間科学、社会福祉の学位を出せる専攻として、しっかり存続します。一番大きく変わるのは人間科学専攻ですね？

**細見** 確かに、実験心理・臨床心理関係の先生方、社会学・社会調査関係、それにサステナビリティ学の先生方が人間科学専攻から現代システム科学専攻に移行されます。人間科学専攻は、ジェンダーや現代思想を軸にしながら、文化、歴史、教育を幅広く問う専攻となって、従来よりも文系色が強まる印象になるかもしれません。しかし、これまでも**専攻の垣根を越えた指導や学習**を、人間科学専攻は言語文化専攻、社会福祉学専攻のあいだに持ってきました。その関係を現代システム科学専攻とのあいだではいっそう緊密にできればと思っています。教員の一部は現代システム科学域で教えていますので、なおさらそうなるだろうと思います。いろんな局面でサステナビリティが問われている現在、そういう課題にグローバルに、文字どおり**地球規模で、対応できる人材を育てたい**ですね。

**吉田** 言語文化専攻と社会福祉学専攻はそれほど変わらないように見えますが、まず、言語文化専攻からうかがっていきましょう。

**山崎** 言語文化専攻は、どうすれば社会を変えられるかという問いに直接答えようとする学問領域ではありません。とかく迂遠なことと思われがちですが、近代的理性の強固なフレームを内在的に組み替えることで、社会が抱える諸矛盾の本質を的確に理解し、最適な解に向けて人知を結集する。そのためさまざまな方法が言語文化の資源です。そういう意味では、

新研究科の言語文化専攻も目指すところはこれまでと同じだといえるはず。あえていえば、さまざまな文化現象の一つのテキストとして読み解き、**解釈する力の涵養をこれまで以上に、より明確に教育課程に反映させる**専攻になる。そういうことだと思います。

**吉田** 社会福祉学専攻についてはいかがでしょう？

**関川** 社会福祉学専攻は、社会福祉学博士の学位を付与する研究科専攻として、社会福祉の分野における大学院教育の歴史と数多くの研究者を養成してきた実績があります。現代社会において複雑化・深刻化する福祉課題についても、制度運営から個別支援まで理論と実践に関わる幅広い学びが提供されています。また、社会福祉学にとっても、人口減少・少子高齢化が進むなかで発生する現代社会の諸問題を解決するため、学術的にどのような貢献ができるのか問われています。その意味でも、新しい研究科では、現代システム科学専攻の方々とも、持続可能な社会づくりについて、**共同して教育・研究を展開できることになり、一層の充実が図られる**ものと楽しみにしています。

**吉田** 教育福祉学類から本学の大学院に進学したいという学生は教育やジェンダーの研究系のある人間科学専攻か社会福祉学専攻に進学することになりますね？

**関川** はい、専攻は別になりますが、教育と福祉が融合した学び

と研究の場を検討しています。平成27年度に立ち上げる21世紀科学研究機構教育福祉研究センター<sup>※</sup>は、その取り組みのひとつです。

**吉田** 最後に、研究科長、副研究科長としてひとことどうぞ。

**山崎** この新しい研究科に入学してくる人たちに私が求めたいのは、学問への真摯さです。対象への興味がそのまま学問になるわけではありません。検証に耐えうる仮説と実証の論理的関係を一定のルールに従って表現し公表すること。この地道な作業には近道はありません。真摯さとは正直であることと言い換えてもいいでしょう。そういう世界であるからこそ、学問は人間を惹きつけてやまないのだと思います。基本的なことですが、そこに常に立ち返ることで、新しい研究科は次世代に手渡せる学問の場としての価値を持つのだと思います。

**細見** 天才は1パーセントのアイデアと99パーセントの努力である、という有名な言葉があります。日本ではそれぐらい努力が肝心という意味で受け取られているかもしれませんが、1パーセントのアイデアがなければすべては無に帰するという意味でもあります。とにかく、アイデアと努力を大切に、研究を続けていただきたいと思います。

**吉田** 学生たちに学問や研究を語り出せば、こんな風に熱くなれる本気の先生たちが集まっています。この本研究科を志願してくださり、一緒に学べる日を楽しみにしています。

※P02のTOPICSをご参照ください。



副研究科長（人間科学専攻）

細見和之 教授  
HOSOMI Kazuyuki

研究科長（言語文化専攻）

山崎正純 教授  
YAMASAKI Masazumi

副学長、前研究科長（人間科学専攻）

吉田敦彦 教授  
YOSHIDA Atsuhiko

現代システム科学域長（現代システム科学専攻）

牧岡省吾 教授  
MAKIOKA Shogo

教育福祉学類長（社会福祉学専攻）

関川芳孝 教授  
SEKIKAWA Yoshitaka

# 言語文化学専攻

人間活動と社会関係の基盤である言語と文化を、高い専門性と広い視野をもって多面的にとらえることを目指します。

**青木 賜鶴子**  
教授



中古日本文学。和歌・物語及びその注釈史・享受史の研究

**奥村 和子**  
准教授



日本語学。アクセント史を中心とした日本語の音韻

**西田 正宏**  
教授



近世日本文学。歌学を中心とする学芸史の研究

**村田 右富実**  
教授



上代日本文学。万葉集を中心とした上代韻文学の研究

**山崎 正純**  
教授



近代日本文学。太宰治・在日文学等の作品研究／明治以降の文学とナショナリズムとの関連性の考察

**ケイン・ケビン**  
講師



アメリカ文学。エドワード・オルビー／レイモンド・カーヴァー／アメリカ近代演劇／アメリカ・ポストモダン小説

**近藤 直樹**  
教授



イギリス文学。特に17・18世紀のイギリス文学とイギリス社会の研究

**スコウラップ・ローレンス**  
特命教授



言語学。語用論(特にdiscourse markerの働き)／音韻論的文体論(英語詩を題材として)

**相田 洋明**  
教授



アメリカ文学。W・フォークナーを中心とするアメリカ南部文学／アメリカ現代文学／英語メディア研究

後期のみ

**橋本 喜代太**  
教授



言語学・工学。理論言語学／統語論／談話文法／自然言語処理／教育学／知識処理

**高垣 由美**  
教授



テキスト言語学・フランス語学。テキスト構造の比較研究、対照辞学、日本語とフランス語の文法対照研究

**高木 佐知子**  
教授



談話研究／社会言語学。談話ストラテジーや会話の構造の考察／メディア・ディスコースの分析

**張 麟声**  
教授



日本語学／日本語教育学／対照研究。日本語の類義表現研究／日本語習得研究／言語教育または言語研究のための日中対照研究

**中村 直子**  
講師



言語学／ドイツ語学。ドイツ語の複合動詞の造語法、正書法における問題／言語(学)と社会の関わりに関する研究

**宮畑 一範**  
准教授



認知意味論。日本語・英語語彙の多義構造の研究／ことばの意味と理解に反映される人間の認知メカニズム

**滝野 哲郎**  
教授



アメリカ文学。18・19世紀アメリカ南部文学

**徳永 アン**  
准教授



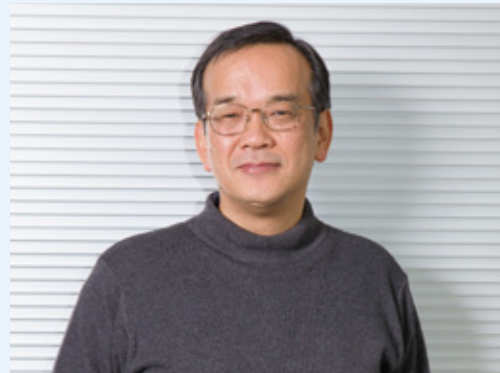
応用言語学・英語教育学・選択体系機能言語学

**藤岡 真由美**  
准教授



英語教育学・応用言語学(特に英語アカデミックライティング、第2言語語用論)

**山東 功**  
教授



**田中 宗博**  
教授



説話と説話集、伝承文学の研究。中古中世の説話集を対象とする研究。説話と仏教との関わり、説話と和歌・歌論についての研究

専門分野は、説話・伝承文学の研究。時代で言うと、平安末院政期から鎌倉期を対象に、説話集と周辺資料をこつこつ読んでいます。これまでの仕事の柱は二つあって、一つは鴨長明『発心集』を中心に、中世仏教説話の世界を研究すること。もう一つは、藤原忠実の言談録『富家語』『中外抄』から、『古事談』や『続古事談』といった説話集への展開を追いつつ、貴族説話の諸相を研究するというものです。

研究の拠点としては、説話文学学会・仏教文学学会・中世文学学会等の全国規模の学会は当然として、神戸説話研究会・『俊頼髄脳』研究会といった、小規模だけれども共同研究に適した同学の

集まりも大切です。その成果の一端は、昨年『論集中世・近世説話と説話集』(神戸説話研究会編/和泉書院)として刊行されました。学内では、何人かの先生方と「説話文学美術研究所」を立ち上げ、美術と文学にあり渉る学際的研究も進めています。その他、昔話や各地の民話・都市伝説や怪談も興味の対象で、院生・学生の研究テーマとしては、広く説話・伝承に関わるものが選択可能です。付言すると、沖縄の歴史や文化を知ることも大好きで、その方面での勉強も潜かに続けています。

## 言語文化学専攻【修士・博士論文のテーマ】

### 修士論文 (H25年度～26年度)

インドネシア語dI構文の使用条件—主語が動詞の後ろに位置する場合を中心に—

Phase and Cartography: An Alternative Approach to Clause Derivation

明治期における翻訳文学の文体—『繁思談』を中心に—  
習作期亀井勝一郎の文学と思想

A Comparative Analysis of Semantic Extensions of Atama in Japanese, Head in English, and Meori in Korean

日本語のテイル形とトルコ語のyor形の対照研究

太宰治における自然描写をめぐる—「富嶽百景」と「人間失格」を例として—

日本語と中国語の可能表現の対照研究—実現系可能を中心に—

万葉集の詠物歌—「柳」「琴」を中心に—

江戸川乱歩作品研究—科学と小説の接点—

日本語の「だ」と中国語の是の対照研究

日本語と満洲語の主題マーカ—についての対照研究

助動詞の構文的位における日本語と白語の対照研究

日本語の「を」、「に」と白語の「nox」、「ngvl」の対照研究

介在文の成立におけるアスペクト的要素の関わり方

A Cognitive Study on Conceptual Metaphor of Opposite Concepts— Aiming to Create an Effective Way to Teach English Vocabulary —

テンス・アスペクトマーカ—としての日本語の「た」と中国語の「了」との対照研究

宮沢賢治の農民芸術

The Spectator Complex in Oscar Wilde's life and the Characters in The Picture of Dorian Gray

**近年の主な就職先** 大阪府教育委員会、長谷川工業株式会社、トラコム株式会社、赤峯学院(中国)など **近年の主な進学先** 大阪府立大学大学院

Metaphor in Emotion Expressions of Anger, Fear, and Sadness in Japanese

第三者言語接触場面における会話参加と主導権の管理

Realism and Idealism in Gone with the Wind

推量を表す日本語の「だろう」と中国語の「吧」についての対照研究

### 博士論文 (H19年度～26年度)

拾遺和歌集の研究

太宰治における<倫理>の問題

日本語並列表現の体系と記述

日本語の主題の省略と顕現—継起関係にある同一主題の文連接の考察から—

太宰治作品研究—語り手の思想と方法

現代日本語の前置き表現の記述的研究

上代日本語の書記資料にみる敬語の文法化

日本語と中国語の比較に関わる程度副詞の対照研究—「程度増加型」副詞を中心に—

『万葉集』における鳥の表現とその機能

金時鐘の言葉と思想—注釈的読解の試み—

中島敦作品研究—戦時下の軌跡—

日本語とモンゴル語の主題マーカ—の対照研究

福永武彦作品研究—「二十世紀小説」の方法—

日本語とシンハラ語における動詞構文とその格標識の対照研究

表語文字の仮名化についての研究—『万葉集』を中心に—

万葉集に見える難波の研究—表現視座の諸相—

鳥取大学、京都教育大学、華僑大学(中国)、西安工業大学(中国)、



**西尾 純二**  
教授



日本語学／社会言語学。待遇表現の言語行動論的研究／日本語の社会的機能に関する研究／日本語方言の動態／記述研究

専門は日本語の社会言語学です。その中でも、日本語の多様性を研究対象としています。ことばの多様性研究には、色々な研究のアプローチがあります。ことばの世代差からは、言語変化の仕組みが見えてきます。ことばの性差からは、ことばとジェンダーの関係が示唆されます。ことばそのものだけではなく、言語行動の多様性に注目するとまた興味深い世界が広がっています。日本語学習者や若者、都会人や農村部の人々、社会的マイノリティ。そういった人達の言語行動にそれぞれの特徴があるということは、何を意味するのでしょうか？ その特徴からは、日本語学習やさまざまな社会環境とコミュニケーションとの関


わりが見えてきそうです。このような言語行動を含めたことばの多様性のうち、個人的なものではなく、何らかの言語共同体に共有されているものを、客観的に発見していくことを目指しています。日本語の標準規範的なものでなくても、何らかの言語共同体が形成されているということは、そこに人々の多様な営みを反映する、「社会」があるということです。さらに、そこで用いられているのは、多様な「それぞれの日本語」なのです。

# 人間科学専攻

人間・社会・文化に関する多様な学問領域を横断する学際的、総合的な知性を育成します。


思想研究系

**浅井美智子**  
教授




社会思想/ジェンダー論。ミクロ権力論/生命倫理(性と生殖の問題を中心に)/生命科学における認識の問題

**斎藤 憲**  
教授




数学史・科学史。ギリシア数学の成立と展開/ルネサンスにおけるギリシア数学の復興

**酒井隆史**  
教授




現代社会を権力論の視点から分析/都市における文化表現

**細見和之**  
教授




現代思想、比較文学、比較文化。アドルノ、ベンヤミンを中心とした現代思想、及び在日文学をはじめとした近現代の文学研究

**前川真行**  
准教授



思想史/政治哲学。都市と国家の形成についての思想史/概念的研究。


**和田安弘**  
教授



法社会学/紛争解決論。法と紛争(紛争処理とその背景にある規範意識)の動態を人間科学の枠組みで経験的に考察する

後期のみ

**秋庭 裕**  
教授




宗教社会学/比較社会学。グローバリゼーション時代における日本型新宗教の救済観について/質的調査研究法

**水野真彦**  
准教授




経済地理学。産業の空間的集積と分散、知識創造や企業間ネットワークの地理的考察

**宮脇幸生**  
教授



比較社会学/文化人類学。エチオピア西南部の周辺民族の文化と歴史


**渡邊真治**  
教授



経済システム論/計量経済学。その国の文化に根ざした望ましい経済システム的设计(経済政策)


ジェンダー研究系

**伊田久美子**  
教授




ジェンダー論/労働論。家事労働論/不安定雇用とジェンダー/イタリア・フェミニズム

**田間泰子**  
教授




ジェンダー論/社会学。家族社会学/リプロダクティブ・ライツ/表象と身体の間わり/逸脱と社会規範

**東 優子**  
教授



社会福祉方法論。人間の性的健康・権利をめぐる社会的支援システム


**村田京子**  
教授



フランス文化/フランス文学。19世紀フランス文学・文化/フランス暗黒小説・幻想文学研究/文学とジェンダー/女性作家論


文化・文化史研究系

**大形 徹**  
教授




中国思想。中国の魂魄観念及び神仙思想についての研究

**鍛冶義弘**  
准教授




西洋文化史。16世紀フランス文学、文化の多面的検討

**福田珠己**  
教授




文化地理学。場所論、景観論、地域文化論、ドメスティック・スペースの再現とその政治性、博物館研究

**井手 亘**  
教授



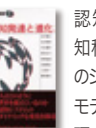
社会心理学。組織行動/組織における評価や動機づけの検討/社会的認知

**岡本真彦**  
教授




教育心理学/発達心理学。子どもの認知発達と教授過程に関する心理学的研究

**牧岡省吾**  
教授




認知心理学/認知科学。言語獲得のシミュレーションモデルの構築/心理実験やコーパス分析による言語処理過程の探究

**河合眞澄**  
教授




日本芸能史/日本近世文学。近世演劇(歌舞伎・浄瑠璃)と近世小説(浮世草子・読本)の交流関係/近世演劇をめぐる文化形成

**佐々木博光**  
准教授




西洋史。ヨーロッパ・ユダヤ人の歴史、民族問題、迫害と共存、歴史教育

**山東 功**  
教授



日本語学/日本思想史。近代国語政策の歴史的展開/日系移民社会の言語思想史的研究

**住友陽文**  
教授




日本近現代史、日本現代史。近代日本のナショナリズム・民主主義に関する思想史的研究、戦後体制の確立に関する思想史的研究。個人創造の思想史

**中村 治**  
教授



環境思想/暮らしの変化と環境問題/精神医学史

**萩原弘子**  
教授



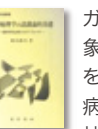
西洋近現代思想/芸術思想史。視覚表現をめぐる性・人種・階級の政治学/ブラック・カルチュラル・スタディーズ/フェミニズム思想と南北関係の現在

**川原稔久**  
教授




臨床心理学。心理療法におけるイメージと身体性の研究/イメージと身体性からみた心理療法の主体の研究

**総田純次**  
教授



ガダマーの現象学的解釈学を背景に、精神病理学及び精神療法の本質を問う研究


**橋本朋広**  
准教授



心理療法における象徴の働き/儀礼のシンボリズムに関する分析心理学的研究/ロールシャッハによる心理アセスメント


教育研究系

**西田芳正**  
教授




社会学。貧困層、マイノリティの教育に関する研究/地位達成を阻害する要因及び社会的排除の研究

**森岡次郎**  
准教授



教育哲学/教育思想史/教育人間学。教育関係における「他者」概念、教育と福祉の理論的架橋に関する研究など

**吉田教彦**  
教授



教育人間学/人間形成論。プーバー人間学とホリスティック教育・オルタナティブ教育(シュタイナー教育ほか)

※平成28年度末退職予定です。



教育研究系  
**伊井直比呂**  
准教授



人権としての教育論、UNESCO 国際教育(国際理解教育)、UNESCO ASPnet、社会科教育、憲法政策論及び教育政策ほか

「持続可能な開発のための教育(ESD)」など、ユネスコ国際教育の学校教育への援用や学習権の今日的有効性などを研究しています。例えば、グローバル人材って何でしょう?世界と戦って勝てる人材ってどんな人でしょう?子どもたちにそれを強いる教育は本当に「教育」なのでしょう?それに参加したくない人はどうしたらよいのでしょうか?それは教育の失敗なのでしょうか?ユネスコはむしろ Education for All を大切に、勝負の教育ではなく、自分の成長と意味を実感でき、「持続可能な未来」を共に創る(共創的)教育を進めています。そしてこのユネスコの精神を實踐する学校が UNESCO Associated Schools Project network

(ASPnet: ユネスコスクール)です。現在、加盟校は世界186カ国で9800校(日本には2014年10月現在806校)あります。2014年11月には、UNESCO・文部科学省主催で世界32カ国のASPnet校約160名の高校生によるESDをテーマとしたユネスコ世界大会が開催されました(岡山市)。大阪府立大学は、大阪と岡山の500名以上の高校生による運営と共創的ディスカッションを支援するため、3年間にわたり、理論的・教育実践的に支援してきました。もちろん、学部生・大学院生も、学部・研究科での多様な学びと研究を通して、高校生を支えてくれました。

明末清初の詩、散文そして小説を中心に研究しています。特に好きなのは、明代の古文辞派の詩学の系譜に属する詩人でありながら、超絶技巧的な典故の運用と複雑怪奇な詩律学の確立に新境地を見出した清代の初めの王漁洋という詩人です。彼のデビュー当時の状況、その詩の特徴、後世の評価など一貫して王漁洋を研究してきました。小説の分野では『西遊記』のパロディである『西遊補』の注釈をずっと書いてきました。『西遊補』は孫悟空が青魚精という妖怪の術中にはまり、壮大な罠に陥り、古人世界、未来世界などいくつかの世界を彷徨するのですが、世界をつなぐ入り口は鏡(銅鏡・水面)という、極めて近代的な小説で、短いのですが原作を凌ぐ出来栄です。

もう一つのテーマは「中国人の夢」です。とくに明末に出版された夢占いの百科全書『夢林玄解』は、夢の原理論、夢に関する言説の集成、四千以上に上る夢占いの項目などから成る天下の奇書で、どうにも取っ掛かりがなく、長い間苦しんだあげく、最近ようやく「夢林玄解の成立」という論文を一本書きました。内閣文庫で私費20万円を費やして撮影してもらってから20年が経っていましたが、この論文はその典型と言えるでしょう。私が論文の大量生産が叫ばれる今の時代に乗り遅れていることは否定しませんが、中国のことを更に一歩進んで考察してみたい人、共にゆっくと学んでみませんか。



文化・文化史研究系  
**大平桂一**  
教授



中国文化史/中国文学。中国人の夢と夢理論/明末清初の文学(王朝交代期の詩・散文・小説)

## 人間科学専攻【修士・博士論文のテーマ】

### 修士論文 (H25年度～26年度)

女性起業家の事業拡大における課題と解決策～管理職経験をベースに検討する～  
児相問題の論点－児童相談所の「何が問題か?」に関する福祉社会学  
「イクメン」ブームを手掛かりとした男性の育児参加についての考察  
韓国における性労働者運動に関する研究  
第三世界女性の抑圧を論じるM・ヌスバウム言説に関する一考察  
中国古代の「香」と博山炉－漢代以前の「香」と祭祀の関係性を中心に－  
「いじめによる自殺」という社会的文脈の形式について－「大津市中学2年生の自殺」に関する言説分析から－  
関係性がかわるきっかけに関する臨床心理学的一考察－発達障害のレイセラー事例を通して  
『四書評』真偽の問題について  
子どもの幽霊イメージと幽霊体験  
「対象をうしなうのではないか」という不安に関する臨床心理学的一考察  
中国二胡とその楽曲の日本における受容と影響  
『羅一峯先生集』版本成立考  
大阪の古木信仰－道路上の古木と蛇信仰について  
読解における小学生のメタ認知モニタリングの駆動と状況モデルとの関連性  
手塚治虫の生命観・宗教観－『火の鳥』から考える－  
明治初期の唱歌教育にみる西洋と日本一声とことばの観点から－  
「虐待する母親のこころ」に関する臨床心理学的一考察  
日本の教育政策における「生きる力」－その具現化プロセスと主体的創造－  
『竹取物語』に関する臨床心理学的一考察  
制御焦点が反応時間と反応傾向に及ぼす影響  
ジロジュ・サント 《言葉》の物語としての「モーブラ」  
古代における馬医鍼灸学の文献的研究  
現代社会における政治的社会的意義と条件－市民社会におけるアソシエーションの果たす役割を中心に－  
「女教師」へのまなざしの変容についての研究－映画『青い山脈』三作(1949年、1963年、1988年)の表象分析から－  
1910年代～20年代初頭における「産児調節」論をふりかえる－『婦女新聞』を中心に－  
観光とジェンダー－奈良町を事例としたガイドブックの考察－  
若年妊婦・出産へ向けられるまなざし  
仕事と家庭－「女性の選択」はなくなるか  
「機械仕掛けなもの」についての臨床心理学的一考察－押井守の映像作品における機械と身体の変遷を通して－  
則天武后の政治における道教の影響  
尾形亀之助研究  
学年の違いによるいじめ構造のパターンの研究:学生へのインタビュー調査から  
思春期の「物語体験」に関する臨床心理学的一考察  
中国における暮らしの変化と都市環境問題－フアトを例として－  
ニューカマーの子どもの「教育を受ける権利」と公教育の屋簷－グローバリゼーション社会のなかの日本、その憲法26条のどらえなおし－  
現代中国の住宅事情が及ぼす影響について－1980年代に生まれた若年層を中心に  
杜甫の題画詩－山水画を中心として－  
魏晉における荘子思想の実現と発展－阮籍を中心に－  
王漁洋の香奩体詩について  
天王寺駅周辺開市の形成過程  
設立者が語るフリースクールの意味－6名のライフストーリーより－  
日中(中日)持続的友好関係のための国際理解教育カリキュラム開発－徐福伝説を用いて  
運動可能性の差異による学習効果の変動  
エーリッヒ・フロムの「持つこと」と「あること」についての考察  
「結婚」における男性の困難  
切り貼り遊びについての臨床心理学的考察  
非日常的空間における表現についての臨床心理学的一考察－見える身体と見えない身体位相から－

### 博士論文 (H20年度、H22年度～26年度)

都市近郊立地型研究用原子炉の社会的考察－京都大学原子炉実験所と武蔵工業大学原子力研究所を事例に  
「職責としての大学自治」論－大学の社会的価値創出の思想史研究－  
大日本帝国憲法体制の崩壊と日本国憲法体制の成立についての基礎的考察－一九三〇年代の主権及び人権をめぐる憲法論議から－  
水のイメージと心理療法  
戦後日本における「育児の孤立化」問題の形成過程に関する研究  
プロティノスの幸福論における観照と永遠心の「分裂」についての臨床心理学的研究  
フェミニズム法学とNationhoodをめぐる議論の展開と展望:難民審査ジェンダー・ガイドラインと女性難民保護から見えてくるもの  
Female Circumcision(FC)/Female Genital Mutilation(FGM)論争再考  
アブジェクションという視点から見た主体の生成と心理療法  
近代日本の(絵解きの空間)－幼年用メディアを介した子どもと母親の国民化－  
「東北鬼門」観の成立と展開に関する研究－中国から日本への伝播を踏まえて－  
看護職における就業継続の内的要因に関する質的研究－看護を支える喜びの生涯発達の変容－  
北宋の文学者梅堯臣・曾鞏・蘇軾の妻に対する観念  
「新しい公共」を担う女性の活動の可能性  
生きられる身体におけるよき生:倫理学としての身体論－ベルクソン、メルロ＝ポンティ  
「氣」の養生思想の研究－鍼灸美容における身体美の原点－  
中国における魂魂観の変遷－二元的な区別の観点を中心に－  
哀悼遊戯と星座－ベンヤミン「ドイツ哀悼遊戯の根源」の総体的な構成を巡る考察  
「在日コリアン文学」の起源としての金蓮寿文学－その総合的研究  
高齢男性のセクシュアリティと男らしさ  
男性介護者の社会問題化とジェンダー:介護の男女共担社会の実現可能性について

**近年の主な就職先** 大阪府、大阪市、箕面市、堺市教育委員会、富士通システムズ・ウエスト、岩手大学、茨城大学、大阪教育大学、ノースアジア大学、福建師範大学(中国)など

**近年の主な進学先** 大阪府立大学大学院、京都府立大学大学院

## 博士前期・後期課程

# 社会福祉学専攻

### 伊藤嘉余子 准教授



子ども家庭福祉論/社会的養護のあり方に関する研究/児童養護施設におけるソーシャルワーク/施設における養護内容・実践

### 中山 徹<sup>\*</sup> 教授



社会福祉調査論/社会保障。貧困問題と社会福祉政策に関する調査研究/ソーシャル・インクルージョンと支援システムの開発

### 小野達也 教授



地域福祉論。ボランティア、NPOなど民間福祉活動の研究/コミュニティワークの課題と可能性についての探究

### 松田博幸 准教授



社会福祉方法論。セルフヘルプ・グループの実態及び援助専門職との関係に関する研究

### 嵯峨嘉子 准教授



公的扶助論。貧困及び公的扶助に関する研究/ホームレス施策をめぐる日独比較

### 三田優子 准教授



精神保健福祉。精神障害者への、当事者主体の福祉的援助のあり方に関する研究

あらゆる人々の自己実現のために、生活を営む上で遭遇する諸課題の解決方法を企画し、実践する力を育てます。

### 里見恵子 准教授



乳児保育/障害児保育。統合保育における援助方法の研究/障害のある子どもと家族のコミュニケーション支援

### 山野則子 教授



児童福祉。児童虐待防止ネットワークの研究/相談体制におけるスクールソーシャルワーク/親支援プログラム

### 関川芳孝 教授



法律学。社会福祉の法制度や施設運営についての研究/ADAなど、アメリカの障がい者権利保障のあり方

### 吉武信二 教授



健康福祉・教育、スポーツ科学。効果的な健康維持増進、ダイエット、トレーニングの方法及び支援に関する研究

### 田垣正晋 准教授



障害者福祉。身体障害者の心理社会的な問題に関するライフストーリー及びナラティブ等による質的研究

### 吉原雅昭 准教授



社会福祉計画/社会政策。基礎自治体を基盤とする福祉システムの国内及び国際比較

### 中谷奈津子 准教授



保育理論。保育学、家族支援研究/子育てを取り巻く諸問題、地域子育て支援

### 西田芳正 教授



福祉哲学。社会福祉援助における哲学的課題の研究/社会福祉援助及び政策における価値規範に関する研究

<sup>\*</sup>平成28年度末退職予定です。

## 社会福祉学専攻【修士・博士論文のテーマ】

### 修士論文 (H25年度～26年度)

中国の農村における留守老人家庭生活問題－大都市周辺農村の調査から－  
住居喪失型貧困を経験した人にとって施設とはいかなる場か～保護施設を利用した女性へのインタビューを通して～  
あいりん地域における日雇労働者の労働・生活保障制度の展開と政策的課題に関する研究  
教育と福祉の交点－学校ケースワーカー・教師経験者のインタビューを手がかりにして－  
市町村家庭児童相談担当部署における福祉職員育成について－スーパービジョンに焦点化して－  
保育士の広汎性発達障害児へのコミュニケーション支援力を高めるINREALの研修プログラムの一考察  
市町村福祉行政におけるスクールソーシャルワーク事業構築のプロセス－A市の福祉と教育の連携に着目して－  
「弱者者」の語りから見る障害の意味  
中国残留邦人等への生活支援に関する一考察  
当事者の語りから「ひきこもり」の意味を考える  
保護者同士の交流を促す保育相談支援技術のモデル開発  
地域における子どもの健康福祉とスポーツ環境に関する研究－現状の問題点と課題および総合運動プログラムに着目して－

### 博士論文 (H21～22年度、25年度)

保育所におけるソーシャルワーク実践研究  
中国都市部における高齢者介護サービスに関する研究  
社会事業における援助実践の役割・機能に関する研究－大阪府方面委員の実践活動に焦点つけて－  
市町村における高齢者虐待防止体制とその評価に関する研究－評価モデルの構築を中心にして－  
認知症の人に対する態度に関する研究－認知症の人に対する態度尺度の開発を通して－  
若い世代における精神障害者・こころの病を持った人に対するスティグマティゼーションに関する研究－スティグマティゼーションの是正を図る教育的介入の評価－  
発達障害の可能性がある子どもも保護者支援－保育士の役割と支援方法－

**近年の主な就職先** 愛知再生資源株式会社、堺市教育委員会、奈良教育大学、関西国際大学、大邱大学(韓国)など

**近年の主な進学先** 大阪府立大学大学院



### 児島亜紀子 教授



福祉哲学。社会福祉援助における哲学的課題の研究/社会福祉援助及び政策における価値規範に関する研究

私は社会福祉学のなかでも、原理論や福祉哲学と呼ばれる領域を専門にしています。原理論とは「社会福祉とは何か」を問ういわばそもそも論を指しますが、私は「社会福祉とはどのような機能を持つ政策・援助活動(実践)なのか」という機能論に関心があるのではなく、「社会福祉実践に求められる思想(人間観や社会認識)とはどのようなものであるべきか」という規範的な問題に関心があります。近時、災害研究を始めとしたさまざまな領域でヴァルネラビリティ(vulnerability)という言葉が使われています。これはもともと傷つきやすさや攻撃されやすさといった意味を持つ言葉ですが、この概念が社会福祉の政策

枠組に用いられている英国では、弱く、傷つきやすいと見なされた人びとはリスク管理の対象となり、その結果彼ら・彼女らの自己決定が妨げられ、専門職による過度な保護や干渉が行われていると指摘されています。一方わが国でも、「生活保護パッシング」に見られるような、困難のもとにある人を攻撃する言説が広がっています。行きすぎた保護もあからさまな攻撃も、排除の様態のひとつにはかなりません。このような時代だからこそ、vulnerabilityをはじめとする基礎概念の吟味や社会福祉の人間観の探求を行う原理論(および福祉哲学)を、より深く掘り下げていく必要があると考えています。

# 現代システム科学専攻 Q&A

高度な専門性と領域横断的な発想力を組み合わせ、持続可能な社会の実現に貢献する新たな知のあり方を創造します。

- Q1：それぞれの分野では、どのような研究ができますか？
- Q2：先生ご自身は、学生と学外に出かけることはありますか？
- Q3：現代システム科学専攻と工学研究科との違いは？
- Q4：現代システム科学専攻ではどのような学生に来てほしいですか？

## 知識情報システム学分野

宮本貴朗 教授

**A1** 知識情報システム学分野は、高度情報化社会の基礎となる情報に関連する専門分野の知識と技能を学ぶとともに、知能情報学、経営情報学、教育情報学、ヘルスケア情報学などの学際的情報学分野における課題解決への取り組みを通して、知識科学および情報システム工学と社会科学などの他分野との融合による新たな価値を創造するための研究を行っています。

**A2** 学会発表や研究会への参加、他研究組織との研究のためのミーティングにおいては、学外へ出かけることがあります。研究そのものは研究室での基礎実験とその検証が中心になり、基本的に実証実験のベースは学内の情報環境にあること、ネットワークに接続されていればどこからでも学内の研究環境にアクセスできることもあり、学内や学外の区別はあまり考える必要がなく、この分野ではインターネットさえあればどこでも研究はできていると思っています。

**A3** 工学研究科では、自然科学を基礎として社会に必要な生産力を生み出す科学技術の進展を目指した研究を行うことで、高度な技術者・研究者の養成を目標としています。現代システム科学専攻においても同じく自然科学を基にしますが、社会科学や人間科学などの他の分野との融合をより重視した学際的な研究を行います。知識情報システム学分野を例にすると、価値観の変化や多様化する現代社会が抱える様々な問題に対応し、学際的情報学分野の研究・開発を通じて、知識科学、情報システム工学などの情報通信技術がもたらす社会への影響を深く理解することを重要視しています。社会科学や人間科学などの研究者と協働して教育・研究できることが現代システム科学専攻の特徴だと思っています。

**A4** 自分で考えて自分で行動することができる学生に来て欲しいと思います。

他の分野との融合をより重視した学際的な研究を



情報セキュリティ/情報ネットワーク/情報システム工学  
情報システムの設計・開発・運用に関する研究

学術情報センターのマシンルームにて。



実験室にて、ゼミの学生たちと。

## 環境システム学分野

大塚耕司 教授

# 自然科学だけでなく、社会科学や人間科学に根差した論理構成を基にした研究を

**A1** 環境システム学分野は、領域横断型である現代システム科学専攻の中でも最も幅広い研究分野にまたがっており、環境学コースでは、人と自然とのつながり（人が自然から受ける影響、人が自然へ及ぼす影響など）に重点を置いた研究を、社会システム論コースでは、人と人とのつながり（組織や社会制度、文化や思想、社会問題など）に重点を置いた研究を、認知行動論コースでは、人の心と環境とのつながり（人が環境からの情報を処理する仕組み、心の発達など）に重点を置いた研究をそれぞれ行っています。

**A2** 私の専門が海洋環境ですので、頻繁に海の現場に出かけています。私が考える理想の研究アプローチは、現場でのフィールドワーク、研究室での基礎実験、それらのデータを基にしたモデル計算、の三位一体型研究アプローチです。どの部分も重要ですが、特に環境分野では、現場調査のない研究はリアリティに欠け、いわゆる机上の空論になってしまうことが多いので、フィールドワークは基本中の基本と位置付けています。

**A3** 工学研究科では、自然科学に根差した論理構成を基に研究が進められます。これに対し、現代システム科学専攻では、自然科学だけでなく、社会科学や人間科学に根差した論理構成を基にした研究も加わります。例として、私の研究分野である大阪湾の環境と水産資源に関する研究を考えてみます。工学研究科では、流動や水質・底質環境と生物分布との関係を調べ、水産資源の動態がどのように変化するかといった研究が行われます。現代システム科学専攻では、これに加え、各地域での漁業の歴史や生活習慣の違い、海や魚食に関する価値観の相違なども視野に入れた調査研究が行われます。もちろん自然科学系の調査技術や数値計算技術は工学研究科のほうが勝りますが、領域横断的に物事をとらえて解析することは現代システム科学専攻でなければできません。

**A4** 自分の研究が世の中のお役に立つためには他の領域の人とどのように協働していけばよいのか、などを常に考え行動に移すことのできる学生。とにかく、体力!明るさ!根性!は必須です。

## 知識情報システム学分野

荒木長照 教授	菅野正嗣 教授	杉村延広 教授	瀬田和久 教授	中島智晴 教授	橋本喜代太 教授	真嶋由貴恵 教授	森田裕之 教授	渡邊真治 教授	青木茂樹 准教授
岩村幸治 准教授	太田正哉 准教授	小島篤博 准教授	佐賀亮介 准教授	平林直樹 准教授	柳本豪一 准教授	林佑樹 助教			

## 環境システム学分野

下村泰彦 教授	竹中規訓 教授	宮脇幸生 教授	上柿崇英 准教授	遠藤崇浩 准教授	興津健二 准教授	飛田国人 准教授
中山祐一郎 准教授	藤田渡 准教授	星英之 准教授	黒田桂菜 助教	秋庭裕 教授	福田珠己 教授	工藤宏司 准教授
水野真彦 准教授	井手 亘 教授	岡本真彦 教授	牧岡省吾 教授	野津 亮 准教授		

## 臨床心理学分野

川原稔久 教授	総田純次 教授	川部哲也 准教授
高橋幸治 准教授	橋本朋広 准教授	

※詳細は、別冊の現代システム科学専攻のパンフレットをご参照ください。

# 大学院の魅力を語る

## 研究テーマは？

**石原田** 社会福祉学専攻の石原田明美です。研究テーマは、妊娠・出産からみた女性の貧困です。

**阿武** 言語文化学専攻の阿武尚人です。英単語の効果的指導・学習法をメタファーなど、認知言語学の知見を用いて研究しています。

**金** 人間科学専攻の金花芬です。在日本朝鮮族の現状と将来について研究しています。

## 選んだ理由と研究分野の魅力は？

**阿武** 学部生の時、英語を学習する際に、膨大な量の英単語を覚えるのに苦労しました。そんなときに、認知言語学と出会い、その知見を用いて英単語をもっと効率的に覚える方法はないだろうか考えたことが今の研究テーマを選んだキッカケとなります。研究で複数の英単語を考察していく中で、その単語の根底にある人間の文化、身体性などを見出すことができる点を魅力に感じています。



**石原田明美** ISHIHARADA Akemi  
社会福祉学専攻 博士前期課程1年  
研究テーマ：  
妊娠・出産からみた女性の貧困。ハイリスク妊娠に着目して研究！

い、彼らから得た生々しい知見から、在日本朝鮮族一人ひとりに目が向くようになったためです。

## 大学院に進学したきっかけは？

**石原田** 一人娘の小学校入学でもう少し自分優先でも良いかなと思うようになり、また、自分の人生が半分以上過ぎたのに気づいたことがきっかけです(笑)。子どもへの関わり方を学問的にも考えたく大学院へ進学したいと思いました。

**阿武** 自分の研究をこの大学院でなら追求できると感じ、進学を目指しました。

**金** 自分が中国出身の朝鮮族であることについて深く考えていませんでしたが、来日後、多くの留学生と出会って、「自分とは何者か」を問い直すようになりました。府大進学後、日本で排他的な扱いを受けている社会的マイノリティーを支援すゼミの先輩たちの影響で私も在日本朝鮮族の生活を助けるための活動を行うようになりました。その活動を通して新たに多くの朝鮮族と知り合い、彼らの現状について貴重な知見を得ることがきっかけです。

## 入学前と後とで変わったところは？

**石原田** 入学後はスケジュールが分刻みになりました(笑)。特に前期はいつも走っていたような気がしますが、以前よりかえって元気になりました！頭もたくさん使い、授業などで他の院生と議論できるおかげでしょうか。

**阿武** 入学後は自分で勉強、研究する時間が増えたため、時間管理に関してより強く意識するようになりました。自由時間に目的意識を持ってどのような行動をとるかによって、大学院の生活は大きく変わると思います。また学部生の時と比べて、大学院では研究発表などを通して、自分の意見を述べる機会が圧倒的に増えるため、積極的に考えを発信する力が向上しました。

**金** 入学前は、朝鮮族のアイデンティティに関心がありましたが、入学後は、朝鮮族一人ひとりの生活や考え方などに目を向けるようになりました。



**金花芬** Jin Huafan  
人間科学専攻 博士後期課程3年  
研究テーマ：  
在日本朝鮮族の現状と未来。グローバルスタンダードの知見を用いて研究！

## 大阪府立大学大学院の魅力は？

**石原田** 学部などの壁がないところだと思います。先生との距離が近いところもありがたいです。

**阿武** 授業面でも設備面でも自分のやりたい研究をとことんやれる環境が整っている点です。授業の中には他専攻の先生の下で他専攻の院生と学ぶ機会もあり、視野を広げることができたと思います。

**金** ゼミの先生や先輩だけではなく、さまざまな分野で活躍されている多くの先生方からも助言を受けられ、多くのことを気づかせてもらえることです。また、留学生が困った時にすぐ相談できる国際交流センターの存在は頼もしいです！

**石原田 阿武** (うなずく)

※ノークット版はホームページで公開しています。

## 入学者選抜の実施教科・科目など

変更される可能性がありますので、必ず募集要項で確認してください。

### 博士前期課程 9月と2月に試験を実施予定です。

#### 一般選抜

専攻	募集人員	外国語	専門科目	口頭試問
言語文化学専攻	8名	英語、フランス語、ドイツ語、中国語から1科目選択 (日本古典文をもって代えることができる)	○	○
人間科学専攻	8名	英語、フランス語、ドイツ語、中国語から1科目選択	○	○
社会福祉学専攻	8名	英語	○	○

#### 社会人特別選抜

専攻	募集人員	外国語	専門科目	口頭試問
言語文化学専攻	若干名	×	○	○
人間科学専攻	若干名	×	○	○
社会福祉学専攻	若干名	×	○	○

#### 外国人留学生特別選抜

専攻	募集人員	外国語	専門科目	口頭試問
言語文化学専攻	若干名	日本語	○	○
人間科学専攻	若干名	日本語	○	○
社会福祉学専攻	若干名	×(※1)	○	○

### 修士課程 9月と2月に試験を実施予定です。

#### 一般選抜

専攻	教育研究分野	募集人員	外国語	専門科目	口頭試問
現代システム科学専攻	知識情報システム学分野	25名	×(※2)	○	○
	環境システム学分野		×(※2)	○	○
	臨床心理学分野		×(※3)	○	○

#### 社会人特別選抜

専攻	教育研究分野	募集人員	外国語	専門科目	口頭試問
現代システム科学専攻	知識情報システム学分野	若干名	×(※2)	○	○
	環境システム学分野		×(※2)	○	○
	臨床心理学分野		×(※3)	○	○

#### 外国人留学生特別選抜

専攻	教育研究分野	募集人員	外国語	専門科目	口頭試問
現代システム科学専攻	知識情報システム学分野	若干名	×(※2)	○	○
	環境システム学分野		×(※2)	○	○
	臨床心理学分野		×(※3)	○	○

※1 平成26年4月1日以降に受験したTOEFL又は、TOEICの成績を入学の選考の際に反映させます。※2 英語の評価は、平成26年4月1日以降に実施されたTOEIC公開テスト又はTOEFLの成績を用いて行います。※3 専門科目に英語に関する問題が含まれます。

人間社会学研究科広報委員会  
YOSHIDA Atsuhiko  
YAMASAKI Masazumi  
AOKI Shizuko  
KAKIMOTO Kazuhiro  
NAKAMURA Osamu

発行  
人間社会学研究科広報委員会  
2015.3.31